

事務事業名		図書館資料収集保存事業		☐ 実施計画掲載事業 ☐ 総合戦略掲載事業																									
政策体系	政策名	03 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間 ☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始 年度～) ☐ 期間限定複数年度【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入																									
	施策名	14 生涯学習の推進																											
	基本事業名	01 学習環境の充実																											
根拠法令		図書館法		予算科目 会計 款 項 目 事業 01 10 05 05 10																									
所属	部課名	企画政策部図書館		事務事業区分 A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 E 一般(1～4以外)																									
	課長名	千葉博世																											
	係名	奉仕係	電話 26-4478																										
	担当者	佐々木達也	内線 450																										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ①社会情勢や市民要望を見極め図書資料を収集し、適切に保存管理し、提供することによって、市民の知る権利に基づく学習や人間形成、市全体の教育・文化の向上を図る。また、市民や市の貴重な知的資料として後世に伝承・保存する。 ②主な業務は次のとおり。 ・図書資料の収集(選書、購入、寄贈献本の受入) ・図書資料の保存(登録、装備、データ管理、配架、補修、保存保管) ・図書資料の提供(貸出、資料案内、レファレンス) ③事業費は、図書購入費、保存のための装備費、修繕のための消耗品費等に支出される。																													
全体計画(※期間限定複数年度のみ) <table border="1"> <tr> <td rowspan="6">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="5">事業費</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費計(A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費計(B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トータルコスト(A)+(B)</td> <td>0</td> </tr> </table>						総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計(A)	0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計(B)	0	トータルコスト(A)+(B)		0
総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金																											
		都道府県支出金																											
		地方債																											
		その他																											
		一般財源																											
	事業費計(A)	0																											
人件費	正規職員従事人数																												
	延べ業務時間																												
	人件費計(B)	0																											
トータルコスト(A)+(B)		0																											

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)

社会情勢や市民の読書要求を見極め、図書資料の選書・購入と、登録・管理。資料の保存・提供。

今年度計画(今年度に計画している主な活動)

前年度と同様。

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

図書館利用者をはじめとした、市民。

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

この事業によって、市民が、知識や情報を得ることができ、学習や人間形成を図れる。また、市民や市の貴重な知的資料として、後世に伝承・保存できる。

④ 結果(基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか)

市民の、豊かな暮らしや、市全体としての教育・文化の向上が図られる。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

名称	単位
ア 購入冊数	冊
イ 寄贈図書登録冊数	冊
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称	単位
カ 蔵書冊数	冊
キ 図書館利用登録者数	人
ク	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

名称	単位
サ 図書館資料の貸出冊数	冊
シ	
ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(目標)	31年度 目標値	32年度(目標)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
			都道府県支出金	千 円						
			地方債	千 円						
			その他	千 円						
			一般財源	千 円	8,321	8,154	7,936	7,936	7,936	7,936
			事業費計 (A)	千 円	8,321	8,154	7,936	7,936	7,936	7,936
	人件費		正規職員従事人数	人	3	3	2	2	2	2
			延べ業務時間	時 間	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
			人件費計 (B)	千 円	6,800	6,800	6,800	6,800	6,800	6,800
			トータルコスト(A)+(B)	千 円	15,121	14,954	15,099	15,099	15,099	15,099
⑤活動指標			ア	冊	2,708	3,125	2,769	2,769	2,769	
			イ	冊	937	1,448	215	215	215	215
			ウ							
⑥対象指標			カ	冊	144,796	148,400	150,748	150,748	150,748	
			キ	人	13,823	14,618	15,252	15,252	15,252	15,252
			ク							
⑦成果指標			サ	冊	153,641	150,653	140,594	144,800	149,100	153,500
			シ							
			ス							

事務事業ID	0883	事務事業名	図書館資料収集保存事業
--------	------	-------	-------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

市民への知る権利に基づく知識や情報の提供を通し、市民の豊かな暮らしや、市全体の教育・文化の向上をめざし、昭和27年に図書館を開設し、開始されている。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

関係する法令も整備され、時代の変遷とともに、市民の図書館への意識や要求も変化しており、対象者も、児童・生徒や社会人のみならず、乳幼児、女性、子育て世代、就活世代、高齢者など、多様な世代や分野へのサービスが望まれ、これまでの単なる教育・文化施設の域を越え、街づくりの核と成り得る総合的な情報・交流施設へと、取り巻く状況や位置付けは一層重要性を帯びてきている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

図書館利用者や議会等からは、質の高い蔵書形成やサービスの提供など、資料の収集保存をはじめ、図書館のより一層の充実が求められている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

有効性評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 市民の学習や人間形成、市全体の教育・文化の向上につながるもので、市の政策体系と結びついている。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 資料の収集保存は、市民の暮らしや、市全体の教育・文化の向上につながるものであり、これを個人や民間で行うのは困難で、安定し充実した事業展開を図っていくうえで、公共の関与は妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 市民を対象としており、現状で適切である。
有効性評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 質の高い適正な資料の収集保存を行うために、人員体制や研修の拡充整備が必要である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 市民が、知識や情報を得る機会が無くなることによって、個人の学習や人間形成を図る機会や、市全体の教育・文化の向上が図られなくなり、影響がある。
効率性評価	⑥ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 社会の情報は日々変化しており、むしろ市民の意識や要求も高まってきており、それに応えるために、これ以上の事業費の削減は困難である。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 市民人口、蔵書規模、利用者数、専門知識や技術の特性、良質なサービス提供などからみて、現在の人員体制は充分でないため、これ以上の削減は困難である。
	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 図書館における、サービスの無料化は、事業の特性をはじめ図書館法に基づくもので、資料の収集保存は、市民全体を対象としており、公平・公正である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性		(2) 改革・改善による期待成果																						
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止		左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td>●</td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td>×</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		●																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																								
図書館の資料の収集保存は、図書館運営の基幹であり、市民の暮らしや文化の向上につながる大変重要なサービスである。また、図書館の町づくりにおける位置付けや、市民の図書館に対する要望や期待は、年々重要性を増してきており、職員体制や研修・養成の充実を図りつつ、現在の状況を維持しながら一層の充実が必要と思われる。																								

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	図書館における、資料の収集保存は、市民の学習や人間形成、市全体の教育・文化の向上を図る上で、大変有意義なものであり、また、市民の図書館に対する意識や要求も変化し、益々重要性を帯びてきていることから、現在の状況を維持しながら一層の充実が必要と思われる。